

バイオエコノミーで未来を拓くⅡ

-2050年カーボンニュートラル宣言とバイオエコノミー-

講演会の趣旨：

森林バイオマスは代表的な再生可能資源であり、その適正な管理とマテリアル利用とエネルギー利用のバランスのとれた利活用が世界的に求められています。一方、森林バイオマスの積極的かつ適切な利活用が地球環境保全に果たす役割が大きいことは認識されているものの、化石資源依存の産業構造からの脱却は依然として十分に進んでいません。これは地球環境への負のインパクトを大幅に減少させる「化石資源から再生可能資源（バイオマス資源）への転換」を正当化し、推進するための新たな経済理念が社会全体に十分に浸透していないことが原因だと考えられます。

このような背景の元、本講演会では昨年に引き続き欧米で浸透・展開しつつある新たな経済理念である「バイオエコノミー」に注目し、「バイオエコノミー」推進の大前提である産業革命以降の地球環境激変の実態を学ぶとともに、「バイオエコノミー」を巡る世界の状況、林業・林産業および水産業における今後のビジネス展開について一緒に考える機会を持ちたいと思います。

日時： 令和3年3月29日（月） 10:00-12:00

方法： Zoom ウェビナーを利用したオンライン

登録方法： 令和3年3月26日（金）12:00まで、件名に講演会参加希望、本文にお名前と連絡先を記載したメールを「maki.miura@bepa.jp」宛にご送信ください。同日中にZoom ウェビナーのミーティング ID をご連絡いたします。

講演者： （進行：高田克彦）

高田克彦（秋田県立大学・木高研、森林資源バイオエコノミー推進機構）：10 min.

講演会の狙い、講演者の紹介

江守正多（国立環境研究所・気候変動リスク評価研究室）：20 min.

講演内容（仮）：気候変動リスクと脱化石資源の必要性

藤島義之（国立研究開発法人・新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO））：20 min.

講演内容（仮）：バイオエコノミーを巡る世界の状況

五十嵐圭日子（東京大学・農学部）：20 min.

講演内容（仮）：日本におけるバイオエコノミー進展への期待と課題

田村典江（総合地球環境学研究所・研究部）：20 min.

講演内容（仮）：バイオエコノミーをめぐる多様な視点

質疑：20 min.

司会：高田克彦、パネラー：江守正多、藤島義之、五十嵐圭日子、田村典江

主催： 公立大学法人・秋田県立大学・木材高度加工研究所

共催： 森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社

後援： プラチナ構想ネットワーク

一般社団法人サステナブル経営推進機構

国立研究開発法人科学技術振興機構低炭素社会戦略センター